

その後、諏訪形・真田混成の四チームに別れての団体戦を行いました。諏訪形の皆さんは初めて体験する方が多かったようですが、やってみるとなかなか熱に入る競技です。

その後、それぞれの自治会の活動の様子を紹介し合つたり、問題点について意見交換を行つたりしました。当 日、真田自治会の文化祭の日でもあります。地域としてのまとまりと盛り上がりを感じました。

なお、真田自治会の公民館は新築五年目ですが、建築にあたつては諏訪形自治会の公民館も参考にされたとのことでした。

両自治会は今後の協力と意見交換、友好を約束して散会となりました。



諏訪形自治会では、伊那市西春近諏訪形区、上田市真田自治会と友好自治会として交流を続けています。諏訪形と真田とは、眞田幸隆公の関係で縁の深い地域です（詳しくは『諏訪形誌』四十九～五十ページ「眞田氏と諏訪形三百貫文」などをご参照ください）。このような歴史的なつながりに思いを馳せ、二〇一〇（平成二十二）年一月二十日、眞田自治会と諏訪形自治会は友好自治会の協定を締結しました。印は眞田家の菩提寺である長谷寺で、当時の眞田地域自治センター長安原茂正さん（長谷寺住職）下博士

諏訪形自治会と真田自治会の
自治会交流会がありました

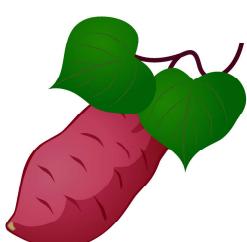
令和 かわ ら 形 版

第27号
諏訪形自治会
会長山越敏雄

学童保育所「ふれんど」の子どもたちの



心會



なお、この日の様子は上田ケーブルビジョンで放映されたので、ご覧になつた方もおられると思います。また、東信ジャーナルでも紹介されました。

行たゞのす、子どもたちの収穫体験に先立つてま
いちプレミ「諷訪形さつま芋の会」のハ人ほ
まがをン諷訪形さつま芋の会」のハ人ほ
し収入バハレ! してが、や畠、すを掘くし
た。 穫れ! してが、や畠、すを掘くし
するたこためした、畠人ほ
の作子どもスコど
業を

令和六年度の人権講座は「聴覚障がい者の生活と手話」というテーマで、上田市聴覚障害者協会役員の勝見定弘さんと手話通訳士の中村直子さんを講師としてお招きして、十月十二日（土）に行いました。

諏訪形公民館主催 「人権講座」が開催されました



身近に聴覚障害の方がいらっしゃらないので新鮮な気持ちで参加させていただきました。聴覚障がいの方とお会いしたから教えていたただいた手話を使ってみたいですね。

・聴覚障がいの方の手話と手話の通訳をしていました。手話と手話を直接見ることを直接見することがなかつたのであります。

・今日の日が来るのを心して待つていました。すばらしかつたです。

・聴覚障がいの方の講演は初めての経験なので、今までの人権講座とはひと味違つたものでした。

なお、今回の講座の開催に当たり、金井保芳さんにプロジェクトを借りる手続きをしていただきました。ありがとうございました。

投稿…諏訪形公民館長 稲垣康史さん

その後、上田市人権啓発推進委員の柳澤富美子さんから、学校で耳学習した実例の紹介がありました。子どもたちの立場からの、聞こえない母親が教室に来ることについての不安。それが学習を通じて「ぼくの母さんはすごいんだ」と気がつくという心の動きも教材の中取り上げていきました。実際の授業の様子を元に実名を使つて教材を作つたとのこと、学校でも真剣に取り組んでいい様子が分かりました。

最後に簡単な手話を一緒に表現し、質疑応答となりました。参加いただいた方は二十人と決して多くはなかつたのですが、たくさんの方質問があり熱意あふれる講座となりました。

いただいたアンケート十五枚の内訳は「非常にためになつた七枚」「いためになつた七枚」、「未記入一枚（手話通訳を拝見することがなかなかつたのであります）」と記入いただいています」と、とてもあります。この回答をいたしました。感想などを少し紹介させていただきま

次に、聴覚障害者協会の勝見さんから、ロジックタード写真を写しながら、川久保製作所での仕事の様子や高い技術で表彰を受けたことと、聴覚障害者協会での活動の様子など、手話通訳をとおしてお話をいただきました

す話係たたとと
のもの「。伝きた、
あるも行と後え、後ろ聞こえ
したあいき感じの人はかうな「落としましたよ。」
めにま違ひてもわの人がない人が落としましたよ。」
にはしいたがしは「。えいまま行つてしまつ
どたがし。時まう教な「。
どきの。そ々う起そそのように無視をされ
ようし起そそのような人間関
うなてしょ。方具まう、人間関
なてしょ。方法具まう、人間関
あるが体的あるにと支援の
あるか支援の

令和六年度の人権講座は「聴覚障がい者の生活と手話」というテーマで、上田市聴覚障害者協会役員の勝見定弘さんと手話通訳士の中村直子さんを講師としてお招きして、十月十二日（土）に行いました。

まず、中村さんから聴覚に障がいがあると、どのような困難さがあるのかを、災害が発生した場合を例に説明がありました。「避難してください」という放送があつても聞こえないので、何が起きているのか分からずに逃げ遅れてしまう。避難所に来ても食事の提供や物資の配給があつてもその情報がわからずに支援が受けられないことがある。そうしたときに、周りの人気がついて教えてあげると困難な状態を克服できる。そのためにも聞こえないと接した経験が大切につくるとのことでした。

『当たり、金井保芳さんにプロジェクト一
きました。ありがとうございました。』
投稿…諏訪形公民館長 稲垣康史さん

